

騎西城周辺年表

- 1455年 足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・戸鼻和氏など）を攻略
- 1466年 足利成氏、南多賀谷（田ヶ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
- 1467年 ★応仁の乱
- 1471年 足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
- 1502年 騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）の雲祥寺を再興
忍城（行田市）主成田親泰の子助三郎（朝興）を娘婿とし
騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
- 1539年 騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
- 1543年 ★鉄砲伝来
- 1560年 長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略
- 1561年 騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加。長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱められ、北条方に。助三郎も離反
- 1563年 北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
- 1569年 上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
- 1574年 上杉謙信、羽生・関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城を焼き払う
- 1576年 成田泰壽（あるいは氏長）、家臣に知行を宛がう
- 1577年 小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
- 1578年 小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
- 1590年 ★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西領2万石を与える
- 1591年 松平康重大英寺を開基、日出安の保寧寺に田畑1町歩を寄進する
- 1593年 松平康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる
- 1596年 根古屋の金剛院、日出安から移転する
- 1599年 松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
- 1600年 ★関ヶ原の戦い
- 1602年 この頃大久保忠常、騎西領2万石を拝領する
- 1603年 ★徳川家康、江戸に幕府を開く
- 1606年 騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
- 1611年 忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西領2万石を拝領する
- 1614年 大久保忠職改易となり小田原・羽生を没収、孫の騎西城主忠職は閉門に処せられる（1625年赦免）
- 1627年 大久保忠職、久伊豆大明神（玉敷神社）に社領を寄進する
- 1632年 忠職、美濃の加納城へ転封。騎西城廃され、代官所が置かれる



十六間筋兜 実測図

武州騎西之絵図

絵図により江戸初期の様子わかります。沼や湿地に囲まれた騎西城と武家屋敷、南に広がる町人町、道（赤線部分）はカギの手に折れ要所に寺や重臣の屋敷がありました。寺社は多く、9寺3社で、ほとんどが現在と同じ位置にあります。



武州騎西之絵図
(神奈川県小田原市立図書館収蔵 岩瀬正直氏所有)

騎西城城郭部

城は、たび重なる軍事的緊張により何度も再構築されました。堀底をさらに掘下げる障子堀を、曲輪間はもとより、城の南側にも設け、幅45mにまで広げて敵襲に備えました。また、御蔵屋敷の南にも障子堀を巡らせ、戦時には7つ目の曲輪として機能したようです。



障子堀



土塁



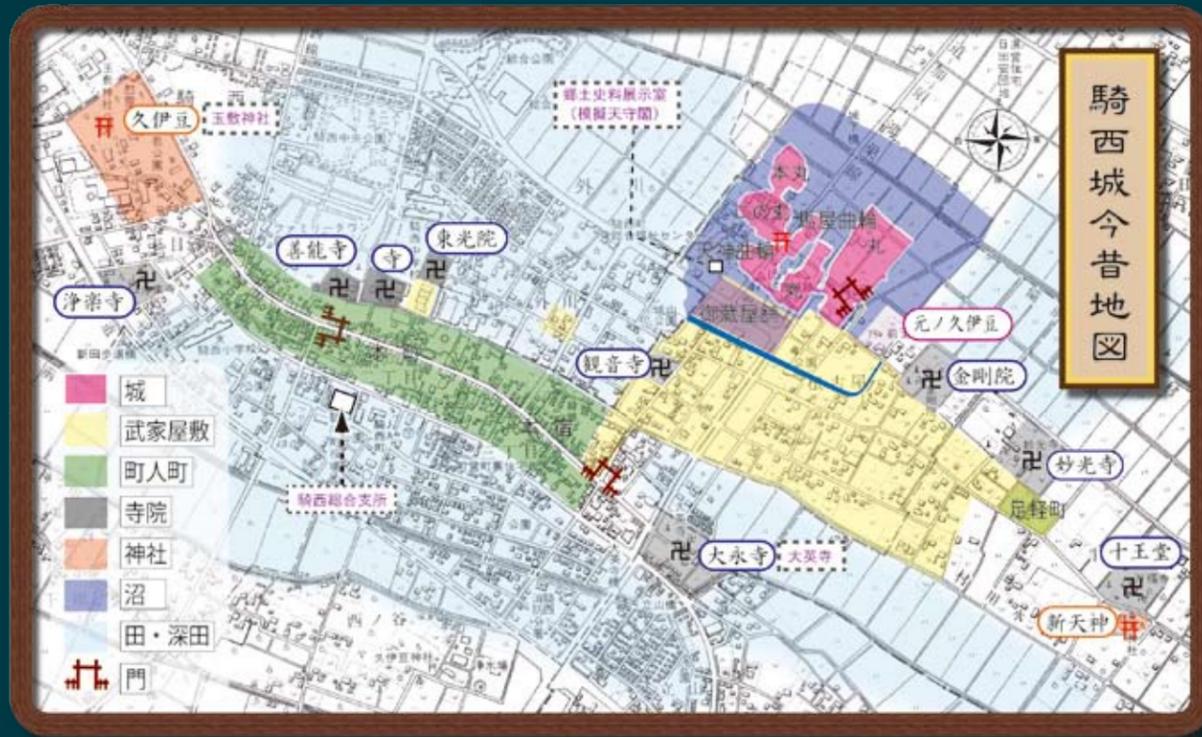
十六間筋兜

騎西城跡

騎西城は、文献では康正元年（1455）に登場し、寛永9年（1632）廃城となり姿を消します。これまでの発掘調査や絵図により、その姿が明らかになってきています。



武州騎西之絵図（部分）



騎西城今昔地図

町人町

東西約1kmで東に大永寺（大英寺）、西に久伊豆社（玉敷神社）があります。本町（63軒）と本宿（23軒）に総数86軒の町屋が軒を連ねています。町人町の東西には西門・南門があり、本町では月に6回市（六斎市）が開かれていました。



玉敷神社



大英寺

武家屋敷

城の南に東西1.2km広がり、絵図では大小の屋敷が70軒を超え、東には足軽町（37軒）を配します。戦国期の屋敷跡では構え堀や多くの井戸・無数の建物の柱穴、堀からは宴会で使用した大量のかわらけ（素焼の皿）が出土しました。



屋敷跡の堀・柱穴



かわらけ出土の様子



市指定史跡 騎西城土塁跡

埼玉県加須市根古屋 634-7
土塁の一部を復元整備しています。隣接する郷土史料展示室（春と秋に特別公開）では兜などの出土品を展示しています。

交通のご案内

- 東武伊勢崎線加須駅から朝日バス 鴻巣免許センター行き 「福祉センター」下車徒歩1分
- J R 高崎線鴻巣駅から朝日バス 加須駅行・加須車庫行きなど 「福祉センター」下車徒歩1分

問合せ

加須市教育委員会 生涯学習課 文化財担当
電話：0480-62-1223

※「加須インターネット博物館」もご覧ください。
<http://www.kazo-dmuseum.jp>

